

授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 武田 時昌					
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	治身の自然学(2) 近世・近代										
【授業の概要・目的】											
<p>現代社会において、高齢化が問題視され、「アンチエイジング」という目新しい造語で、加齢による機能低下を改善し、老化を抑制するための医療が唱えられている。しかし、長寿のサイエンスと呼びうる学問的体系はまだ成立していない。老化のメカニズムが十分に解明できていないからである。</p> <p>東アジアの伝統社会において、長寿達成、延年益寿のための取り組みはきわめて盛んであった。長生をめぐる言説は、治身から治国へという国家論からスタートし、宋明理学や清末の政治思想に至るまで、様々な言説を生むとともに、多種多様な技法や医薬が開発された。それらは、東洋的な養生術、健康法として近代以降にも受け継がれ、一部はサブカルチャーとして定着しているが、医薬学研究の枠外に置かれたままであり、そこに発揮されているアイデアが十分に活用されているわけではない。</p> <p>そもそも健康とは多義的なものであり、それを維持しながら充実した人生を全うするには、多元的、複眼的なアプローチが必要である。そのような視座において長寿社会の健康学の実現を構想するならば、伝統医療文化とその周辺に学ぶべき叢智があるように思われる。そこで、治身の自然学の系譜と展開を辿り、そこに発揮された中国的長生思考の特色を探る。後期は、近世と近代を扱う。</p>											
【到達目標】											
<p>古都の廃墟に佇み、絶望と頹廢に絡まれながらニヒリズムやエクスタシーに刹那的な享樂を見出している若者が、生を養う古代人の叢智に触れ、学問至上主義の誤謬に気づき、生命の尊厳を回復させて、点取りゲームの地下牢から脱獄し、明るく生き抜ける未来を創り出すことができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>各回の論題と考察対象は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 流れる水のごとく生きる：李子龍別伝 (2) ギネスに載らない長寿者：四川軍閥の李青雲 (3) 蠱毒と解毒：万能薬の文化史 (4) 朱子学の修養論：『大学』八條目 (5) 陽明学の治人論：『論語』憲問 (6) 清末の治身治国論：曾国藩・張之洞・梁啓超 (7) エスニックグルメと食養生：『事林広記』『養生訓』 (8) 近世養生ブームの仕掛け人：朱権『活人心』 (9) 辟穀と木喰：古知谷の弾誓ミイラ仏 (10) 瞑想のデトックス：白隠流内丹術 (11) 「気」の身体技法：幕末剣豪の奥義書 (12) 「病は気から」を科学する：近代日本の健康ブーム (13) 食育の近代思想史：石塚左玄・中山忠直・桜沢如一 (14) イクメンと婚活のフォース覚醒：ミトコンドリア・イブの逆襲 (15) 元気の出る医学：東洋的エコヘルス試論 											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点（究極の实践課題は天寿を全うすることにあるが、授業期間内においてはその脳内鍛練、心身修養を重視する）。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

復習として、学び得た技法の实践を試みる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。